

## 憧れが現実に

藍住中学校 鈴木 花

先輩から聞いてずっとあこがれていた海外派遣。内定の通知をいただき気合が入りました。素晴らしい仲間たちと事前研修を何度も重ね、添乗員さんには何度も質問し、何の不安もなく、多くの方々に見送られながら出発しました。

空港に降りた時の寒さで「ここは日本じゃないんだ！」と実感しました。周りから聞こえる言葉が全て英語で、初めは頭が混乱しました。そして少しだけ心細くなりました。

しかし、次の日から通った学校で不安は吹き飛びました。4歳から18歳の約600名が在籍している「St Philip's Christian College Gosford」。初日からみんなとてもフレンドリーで目が合うと手を振ってくれたり、話しかけてくれました。午前は、ロッキー先生の授業で英語力を鍛え、午後は高校一年生のバディの授業に参加しました。1、2時間目の間には「モーニングティー」という時間があり、ホストマザーが準備してくれたお菓子を食べたり、バディがバレーボールに誘ってくれて一緒に楽しみました。

登校最後日の午後には文化相互交流会をしました。みんなでピザを食べたり、練習してきたクイズや阿波踊りを披露しました。笛の生演奏と共にバディたちも一緒に踊った阿波踊りは最高の思い出になりました。

そして、お世話になったホストファミリー。日本が大好きで、夜にはみんなで日本のアニメを観たり、飼っている犬には日本名を付けていて、とてもうれしかったです。

ホストマザーは学校で食べるランチボックスや軽食を作って持たせてくれました。毎日の食事野菜とお肉をバランスよく使ってくれて、すべてがおいしかったです。週末にはホストファザーがカンガルー肉のバーベキューをしてくれ、おなかいっぱい食べさせてもらいました。



学校で茶道部に所属している私は、ホストファミリーへのお礼と日本文化を伝えるために抹茶を点てました。みんな興味津々な様子で、お点前を見てくれました。飲み方も伝授し、みんなで一斉に口を付けました。唯一、ホストマザーだけが「私好きかも」と言ってくれました。ホストファザーと子供達には苦かったようですが「日本の文化を知ることができてよかった」と話してくれました。

週末には水族館と俳優博物館に行きました。博物館では有名人のろう人形と写真を撮ることができました。電車やバスを乗りついたり、スーパーには歩いていくなど、日本に比べてあまり車を使わないことに気が付きました。街中も公共の乗り物や施設もとてもきれいに整備されていてゴミも落ちておらず、気持ちよく生活することができました。

私はこのオーストラリア研修を通して、たくさん学びや気づきがありました。「海外にも日本のおもてなしのような文化があるのか」を調べることが目的の一つでしたが、日本では「お客様」として迎えるのに対して、オーストラリアでは、もっと自然に「家族の一員」として受け入れてくれたような気がしました。

また、異なる文化や価値観に触れたことで自分の視野が広がったし、英語力だけでなく自分で考えて行動する力も身につけることができました。

このような素晴らしい機会をいただけたこと、私たちのためにたくさんの方々が動いて下さったことに心から感謝しています。

藍住町 オーストラリア Hip hip hooray!

